

バーチャル大阪・関西万博に関する委員会設置のご提案

佐久間洋司（大阪大学学生・人工知能研究会 / AIR 代表）

日時：2020年5月13日（水）15時～16時半

会場：大阪・関西万博バーチャル／サイバー会場に関する打合せ

出席者：博覧会協会 岩田泰様方、齋藤精一様、若林恵様、石川俊佑様

名称（案）・コンセプト・ナナナナロク委員会について

名称（案）

バーチャル大阪・関西万博の実現に向けた有識者委員会（ナナナナロク委員会）

People's Living Lab

PLL → **77d (77d)** → **776**

リアルを180度回転
させたバーチャル

ナナナナロク

リアルの配信に留まらない
少しのスパイス (d→6)

- ・アフターコロナ・ウィズコロナの時代のキーワードは「非接触・非対面」
- ・リアルからバーチャルの展開のみならず、相互に働きかけるようなインターフェース
→リアルな会場と並行してバーチャル空間で展開される「バーチャル大阪・関西万博」
を実現することが重要になる。

規模・コスト感

- ・それ単体でも意味のあるバーチャル万博を実現するためには、新たに一つのVR・XRスタートアップを立ち上げるような体制が求められる
- ・実現するコンテンツの規模・コスト等の感覚は、ベンチマークとなるスタートアップと対照することでも検討できる

①松：メタバースレベル（バーチャル世界での「生活」が可能なアプリ）

Second Life、Sanserなど。万博のみで開発するのは高コストかつ回収リスクも高く、既存の企業との連携や限定的な開発が期待される。

②竹：アバターチャットレベル（「他者との交流」ができるアプリ）

VRChat、cluster、Mirrativなど。アバターやアイテムのデザインシステムや交流の基本的な枠組み、サービスのセキュリティや治安維持のための努力など、バーチャルライブよりも一手間かかり、少なくとも十数億を見込む。

③梅：バーチャルライブレベル（実地のように「イベント参加」できるアプリ）

SHOWROOM、REALITYなど。実装やコストの観点では①②よりはやや安価で、独立して開発しても数億円から実装が可能と思われる。同時性など別の難しさがある。

委員候補のリスト

次の5つの観点から30名の委員候補（仮）を提案する。以下に加えて博覧会協会の担当者の方。
エンジニアリング、リサーチ（研究者）、プラットフォーマー、プロダクション、タレント（個人）

エンジニアリング：

- 齋藤精一（ライゾマティクス）
- 水口哲也（エンハンス）
- 猪子寿之（チームラボ）
- 山浦博志（イクシー）
- 後藤貴史（プレースホルダ）
- 近藤義仁（エクシヴィ）

リサーチ（研究者）：

- 廣瀬通孝（東京大学）
- 稻見昌彦（東京大学）
- 鳴海拓志（東京大学）
- 岩井大輔（大阪大学）
- 曆本純一（東京大学）
- 舘暉（東京大学）

プラットフォーマー：

- 加藤直人（クラスター）
- 松井健太郎（バーチャルキャスト）
- 前田裕二（SHOWROOM）
- 大坂武史（Activ8）
- 荒木英士（GREE）
- 加藤卓也（VARK）

プロダクション：

- 針谷建二郎（THINKR）
- 森泰輝（VAZ）
- 田角陸（いちから）
- 谷郷元昭（カバー）
- 鎌田和樹（UUUM）
- 市位謙太（FunMake）

タレント（個人）：

- 佐久間洋司（大阪大学）
- 月ノ美兎（VTuber）
- 相内優香（テレビ東京）
- せきぐちあいみ（VRArtist）
- キズナアイ（春日希）（VTuber）
- 花譜（VSinger）

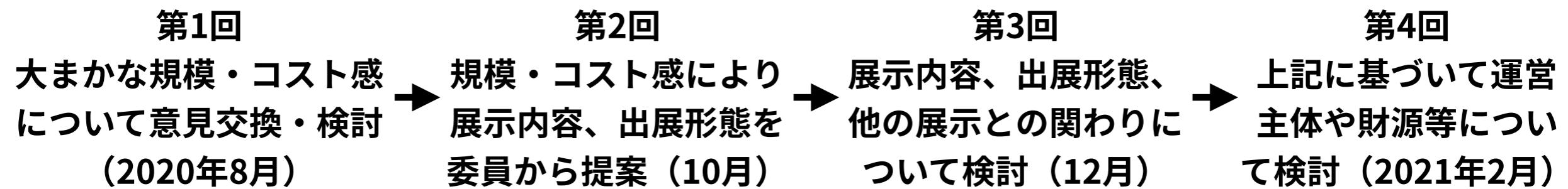
構成の一例とプロフィールを
添付のレジュメに示した

検討の進め方

委員候補の決定、声かけ（～2020年6月）

委員会の発足（2020年7月）

【委員会の開催イメージ】



2021年4月以降

基本計画を参照しながら、先端技術を活用したバーチャル万博の可能性について詳細な議論を行う
(なお、運営主体や事業者が確定したら不定期開催とする)

大阪・関西万博で示す「自由な身体と声で生きる、リアルに溶け込んだもう一つの世界」

